

## 1.2 教育の情報化に関する取組

有効な教育の情報化に関して、APPLICの教育WGでは、総務省・文部科学省と連携しながら、会員である全国の自治体・有識者・関連企業が一体となって検討を進めています。

以下、この教育WGの活動についてその概要を紹介します。

### (1)教育の情報化推進ロードマップの策定

1.1で述べたように、今後教育の情報化を大いに推進することが必要です。そこで、どのようなビジョンの下で、どのような手順で教育の情報化を進めたらよいかなど、今後の教育アプリケーションの検討の進め方を共有し、関係省庁への提案を行うことができるように、「教育の情報化推進ロードマップ」を策定しています。また、具体的に校務の情報化を推進するに当たって、その効果や具体的な推進方法をご理解いただくために、この後紹介するような先進事例の収集も行い、随時紹介しています。

### (2)指導要録・健康診断票などの教育情報データ連携標準仕様の策定

教員ひとり1台の校務用パソコンの整備が、平成24年3月31日現在で102.7%まで進み、全国的に校務支援システムを整備しようという機運が急速に高まっています。しかし、現在は教育委員会によってその様式と内容が異なり、指導要録や健康診断票などせっかく電子化されていても、転校や進級に伴って電子的にやりとりできないという状況になっています。そこで、教育WGでは、従来、指導要録や健康診断票など転校の際に必要な法令文書の授受を紙文書の郵送で行っていた現状を改め、ネットワークを介して電子的に行い、保護者のみなさんの手間を省くと共に、学校間でのデータ授受が円滑に行うことができるよう、「学校教育データ連携標準仕様」の策定を進めています。平成24年6月には、これらの研究の成果をまとめ、小学校と中学校の指導要録・健康診断票電子化の全国標準仕様「教育情報アプリケーションユニット標準仕様V1.0」を公開し、今後は全国の教育委員会でこれに基づいて校務の情報化を進めることとなります。平成24年度は、高等学校と特別支援学校・特別支援学級について、検討を進めています。

### (3)教育クラウド整備ガイドブックの作成

「教育クラウド」は、災害に強く低コストで導入・運用できる非常に有効なシステムです。しかし、「教育クラウド」については、その定義や理念、特長と導入・運用時の留意点などが、十分理解されていないため、『教育クラウド整備ガイドブック』を作成し、教育委員会等が「教育クラウド」を導入する仕様を検討する際の参考にしていただけるようにしています。

また、広く国民のみなさまにAPPLIC教育WGの取組をご理解いただき、教育分野における教育の情報化をご支援いただけるように、本書『Future』の執筆など、様々な広報活動も行っています。以下、全国各地の教育の情報化に関する具体例を紹介します。